

London・Paris & Puydu Fou の調査研究

Surveillance study of London-Paris & Puydu Fou

株式会社シミズオクト取締役	鈴木 義 昭
Shimizu Octo, Inc. Director	Yosiaki Suzuki
株式会社シミズオクトスポーツ・コンベンション部長	鈴木 康 之
Shimizu Octo, Inc. Sport convention division manager	Kouji Suzuki
株式会社シミズオクト営業開発部	鶴 川 明
Shimizu Octo, Inc. Operating development department	Kouji Suzuki

.はじめに

この調査研究は、ロンドンオリンピックの直後であり、パラリンピックの開催中であったが、関連施設について視察。また、隣接するパリ&ペディーフーについての視察調査研究である。

ヨーロッパにおけるスポーツ施設、エンターテインメント施設および関連する企業、隣接するパリにおける同施設・関連企業およびエンターテインメント施設についての視察研究である。

ロンドンオリンピックが開催されたイギリスおよびフランスのスポーツ施設や設計・デザイン会社、エンターテインメント施設やその演出についての見解を述べる。

.ロンドンにおける施設等研究

1. オリンピックスタジアム

<パラリンピック閉会式>

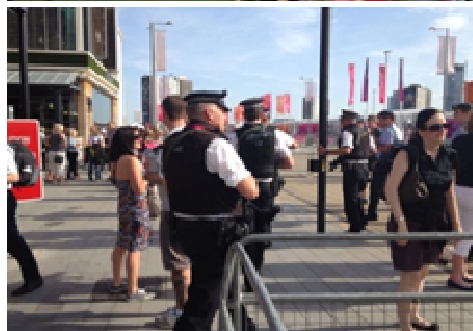
パラリンピックの閉会式はコールドプレイがリアーナやジェイ・Zをフィーチャーした全16曲のライブ・パフォーマンスを行った。

カラフルなセットで、ライブをスタート。続いてフロントマンのクリス・マーティンが、「この曲を全てのアスリートやボランティアの皆さんに捧げます」と述べ、バンドは黄色い照明に包まれたスタジアムでダンサーたちに囲まれる中、大ヒット曲「Yellow」を披露した。

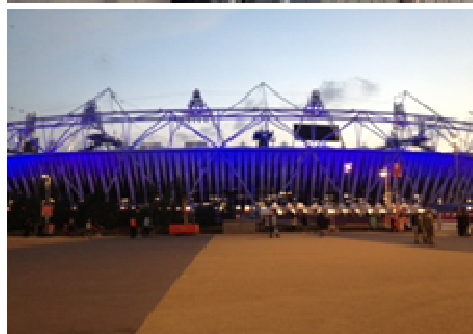
ロンドンからリオデジャネイロへパラリンピック旗が引き渡された後、再びステージに登場し



会場入口周辺
広場に設置され
たビアガーデン



1次ゲート付近
チケットの所持
確認。写真の
警察官は巡回
警備中



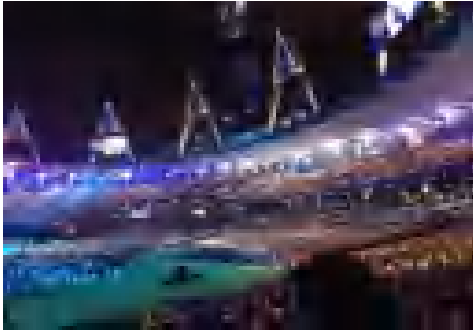
チケットチェッ
クが実施され
る入場ゲート



パラリンピック
閉会式の入場
チケット(A4サ
イズ)、バーコ
ードで入場チ
ェックを実施。
チケット購入者
と入場者が異
なるため譲渡証
なるものを持
ち合わせた
が提示する必要
はなかった。

たコールドプレイは、ジェイ・Z、リアーナと共にジェイ・Zのヒット曲「Run This Town」を披露した。ジェイ・Z はその後、コールドプレイの「Paradise」のパフォーマンスにも参加。

閉会式は「The Scientist」と「Every Teardrop Is A Waterfall」で締めくくられた。



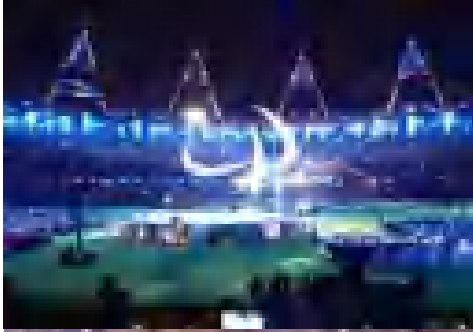
開演に備えほぼ埋まりつつあるスタンド。



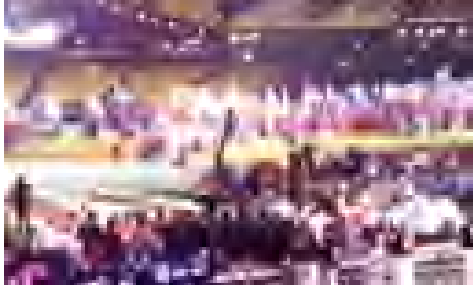
オリンピックスタジアムは座席の間に LED が設置されている、鮮明ではないが、会場演出としては画期的である。



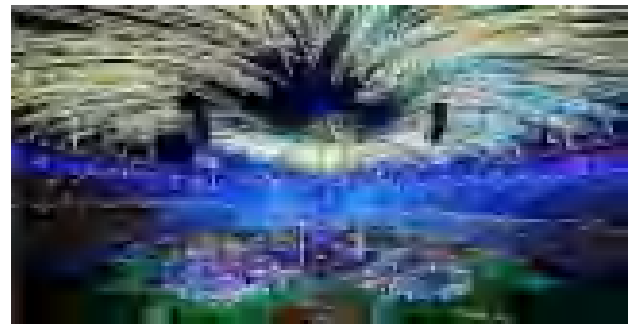
スタンドが巨大映像装置となり、幾何学的な模様やシーンに合わせ色が変わったり、飾的な効果もあった。残念だったのはイギリス国旗が映し出された瞬間は観客がスタンディングしたため国旗がきれいに映し出されなかった



いよいよ閉会式の始まりである。まずは道化師が会場内を周遊しながら観客を盛り上げ、月形のバルーン 3 体が徐々に空に舞い始め、センターステージにそろい、オリンピックロゴとなる。



ロンドン大会には史上最多の164カ国・地域から約4300選手が参加。チケットも270万枚が販売され、前回大会の2008年北京の180万枚から大きく増えた。

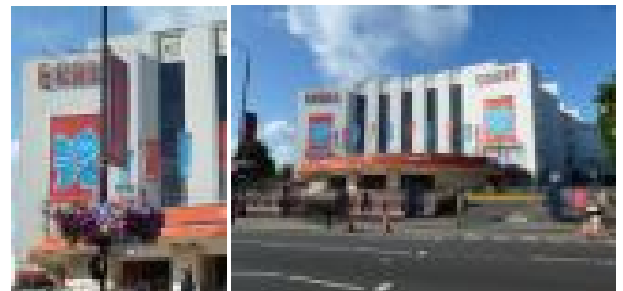


2. オリンピックにおける施設利用

(1) バレーボール会場(Earls Court)

Earls Court は 1937 年開設で、国際的な展示会・会議・コンサート会場として利用されているが、最近では柔道・ボクシング等の会場となっている ExCeL の方が、多く利用されている模様である。

今回は、15,000 席を設置するバレーボール会場として利用されている。



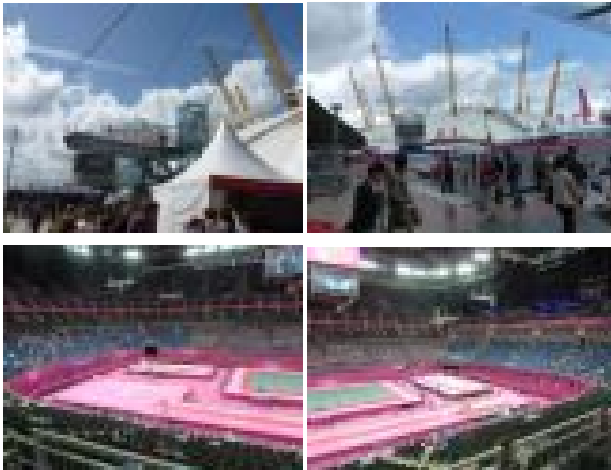
(2) 体操会場(North Greenwich Arena1)

North Greenwich Arena1 は、2000 年のミレニ

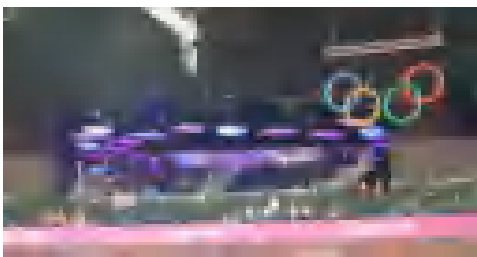
アムイベントのために建設され、スポーツ・エンターテインメント施設として、2007年にオープンした施設である。今回は体操競技。トランポリン・バスケットボール会場として使用している。

黄色の柱脚の吊り構造の屋根が印象的で、屋根下に建築物があるという二重構造となっている施設である。

写真にあるように、屋根上を歩ける様な観客ツアーがあるとのこと。



23階席は全周、個室VIPラウンジ&客席となっている。



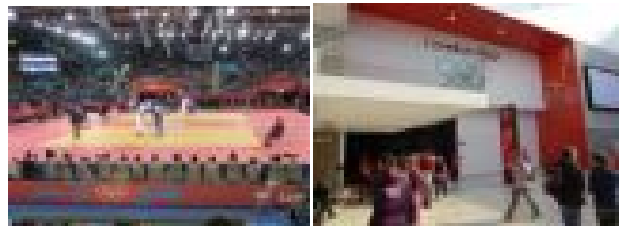
最上階の一部は、はVIPエリア客席となっている。

(3) 柔道会場(ExCel-South Hall)

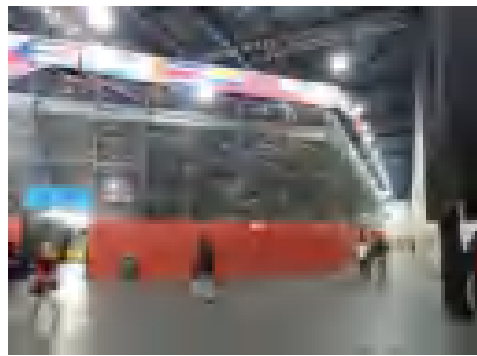
ExCelは、大型コンベンション施設であり、イメージとしては、東京ビッグサイトを倍の大きさにしたくらいである。この会場では柔道の他、卓球・レスリング・フェンシング・ボクシング・ウェイトリフティング等が各ホールで開催されている。来場者の誘導については、良く考えられており、入場時と退場時の駅が異なり、ワンウェイ

になっていた。

会場内には、仮設スタンド(レイヤー製)が天井近くまで組まれており、大変圧迫感があった。コーナー部の席は階段手すりの影響で多少見難い感じがした。



会場全景(天井が低く圧迫感がある。)



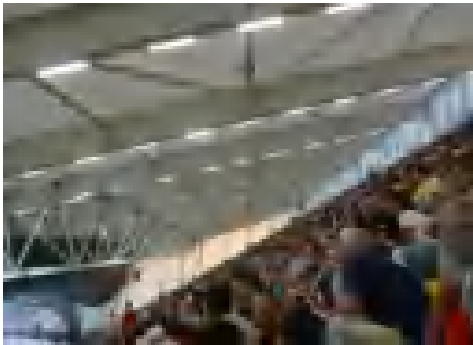
仮設 客席スタンド(レイヤー使用)

(4) 水泳会場 (Aquatics Centre)



水泳会場 (Aquatics Centre) 概観

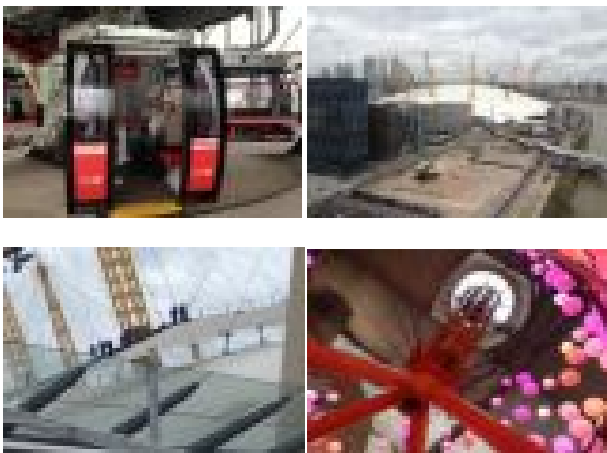
Aquatics Centre は、常設施設（2500 席）の両側に仮設スタンド（15000 席、相当の傾斜と高さがある）を設けた水泳・飛び込み会場である。オリンピック終了後は、この仮設スタンド部は取り外されるとのこと。



仮設 客席スタンド（本設仕様、傾斜がきつい）

(5) バスケット会場<Q2 アリーナ>

Q2 アリーナへはケーブルカーで移動することができる約 5 分ほどで Q2 アリーナへ到着。Q2 アリーナは既存施設を 2007 年に改装し屋根掛けをして現状の施設となる 2012 ロンドンでは IOC の関係で「ノースグリニッジアリーナ」と呼称を期間中変え、競技はバスケットボールを実施。外観が印象的で 12 本の突き出たトラスで屋根を吊り下げている



(6) Olympic Park

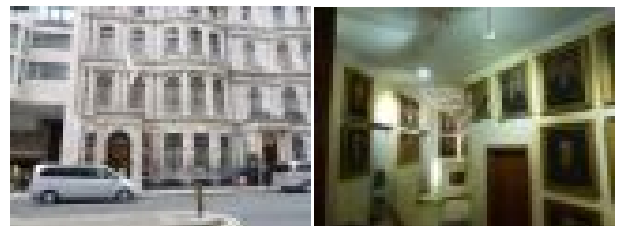
ストラッドフォード駅に隣接し、オリンピックパークの入口にある、ウェストフィールドストラッドフォードシティは、2011 年オープンしたヨーロッパ最大のショッピングモールである。250 のショップ、70 の食事場所があり、大きな集客が

あるが、オリンピック後はいかなるのだろうか？



2. オリンピックにおけるソフトのハード展開

(1) JOC ジャパンハウス



JOC のジャパンハウスは、ハイドパーク近くの王立航空協会ビルを間借りして設置されている。エ



リアとしては、1 階が受付で、地下 1 階が、大型

映像や協賛ブース（NTT ドコモ・全農・味の素・アサヒビール）展開をしているホール、2階エリアはVIPのホスピタリティである。北京大会は電通が業務受注したが、今回はADKが受注した。

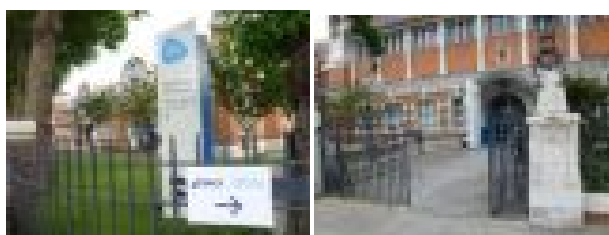
(4) サイン



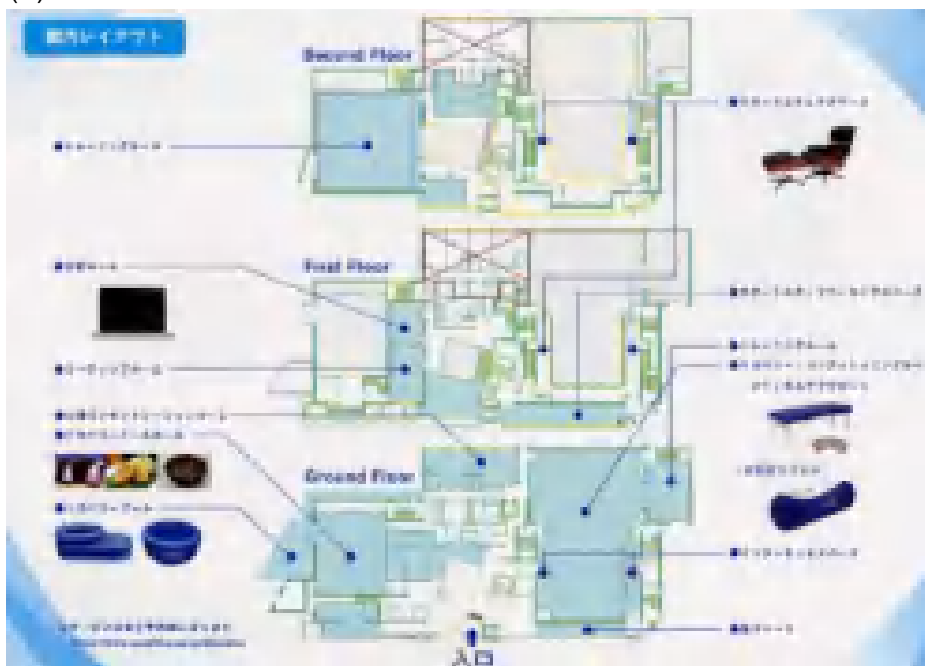
(2) ASICS Home of True Sport



(株)アシックスのPR拠点および契約選手や関係者に対するホスピタリティラウンジとしての、ASICS Home of True Sportは、7/25~8/12の期間で、ストラッドフォードのオリンピックパークより徒歩15分程度の、東ロンドン大学（UEL -University of East London- Stratford Campus Romford Road London E15 4LZ）の図書館スペース内、約10m×25mくらいを貸し切って、すべての図書を搬出して仮設の施設として設営し運営していた。



(3) JISS マルチサポートハウス



3 . WENBLEY & WINBLEDON

この2つの施設は世界的なもので、主にサッカーのWENBLEY、テニスのWINBLEDONである。

(1) WENBLEY

「サッカーの聖地」とも言われるウェンブリースタジアムの視察とシンポジウム

ウェンブリースタジアムはロンドン北西部の郊外に位置し、2007年に総



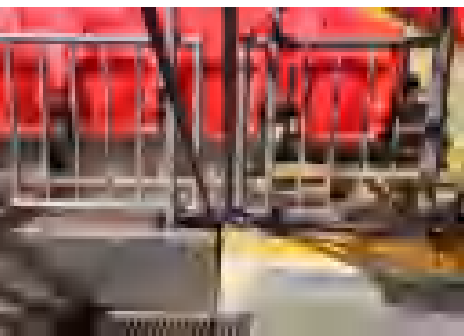
FA のロゴ出力バナーがスタジアム正面ガラス面に設置されている。ハトメがついているバナーを接着されている

工費 7 億 5,000 ポンドをかけ改修工事がされたスタジアムである。

クラブチームのホームグラウンドとしては使用せず、イングランド代表試合、FA 主催試合を含めサッカーで年間 20 試合、コンサート他イベントで 18 開催合計で 38 回の催物を実施される。これは住宅街に立地することと、天然芝の育成の関係で取り決められた回数とのことであった。



視察日が日曜日ということもあり、この日は朝から駐車場でサンデーマーケットが開催されていた。衣料品、青果、雑貨など様々な露店が出展していた。



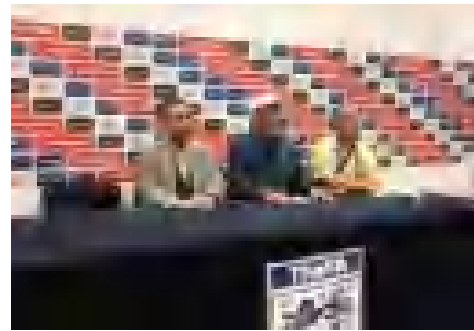
金属部分からフラットになり、舞台設営時のデットスペース、アリーナキャパシティを確保できる



スタジアム内の常設サイン洗練されているが、溶け込み過ぎており、少々目につきにくい感じである。

スタジアム規模はスペインのカンプノウに次いでヨーロッパ 2 番目で 9 万人を収容、屋根付きとしては世界最大人数を収容する。可動式の屋根は、スタジアムの 65% に屋根がかかり、雨天時の対応が可能。コンサート時等はサイドスタンド南側とバックスタンド西側の座席がフラットにすることが可能でステージを設置することができる。

芝は全体の 3% が人工芝を使用し、天然芝をポイントで束ねる方式 (desso システム) を取り入れている。イギリスではこの desso システムを 5 か所スタジアムが取り入れている。2012 ロンドンオリンピックではサッカー 9 試合を開催した。

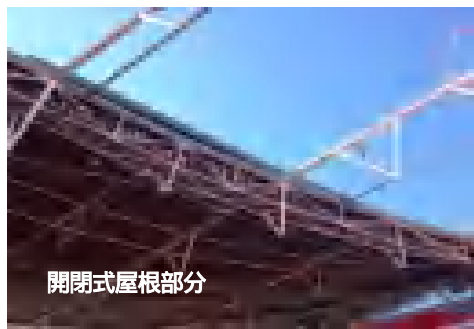


イベントプロデューサー協会の小坂副会長と石山専務理事、清水会長のスリーショット。会場は記者会見場である (通常は立ち入り禁止)。



飛び降り防止柵

金属部分からフラットになり、舞台設営時のデットスペース、アリーナキャパシティを確保できる



開閉式屋根部分

スタンド部分の 65% を覆う可動式屋根。

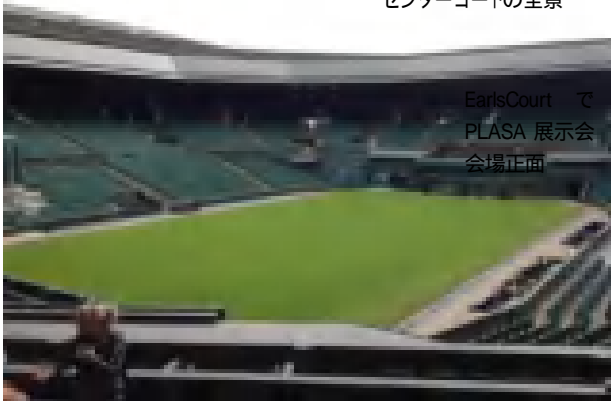


ウェンブリーアリーナー

スタジアムの周辺施設として 2012 ロンドンで新体操とバドミントン会場として使用されたウェンブリーアリーナー。手前はフットサルコート。

(2) WINBLEDON

センターコートの全景



オールイングランド・ローンテニス・アンド・クローケー・クラブの視察とシンポジウム

伝統あるウィンブルドン選手権の会場である。テニスコートは54面を備える。屋根付きコートはNo.1コートとセンターコートの2面のみである54面のうち芝生コートは19面で14人のメンテナン
ス員によって「1.4mm」に管理されている。14人のメンテナン
ス員は絶対的な存在で彼らの意に背くことはできない。



センターコートの開閉式屋根部分

テニスコートは全てメンバー制で運営されており、年間100ポンドの料金で使用できる。ただし、メンバーになるためには様々な条件を満たさなくてはならない。そうで簡単にはクラブ会員にはなれないとのこと。テニスは3歳~14歳までは無料で運営している。成功したビジネスモデルといえる。運営費が低価格なのは全て「ウィンブルドン選手権」の収益で運営をしているため、通常時はテニスを愛好するテニスクラブメンバーに解放される。

ユニホームは白色が指定される。施設の全体面積は19ヘクタールでとても広く「オレンジ」と呼

ばれる部分があり、以前、ニュージーランドのラグビーチームに貸出をしていたことからオレンジと呼ばれるとのいこと。「オレンジ=ニュージーランド」また、施設の1F部分はテニス用品、グッズ売り場があり、B1Fはウィンブルドンの記念展示が行われている。



No.1 コートの屋根鉄骨部分の修繕作業の様子足場を組むのではなく、写真のように安全帯をかけた作業をしていた。



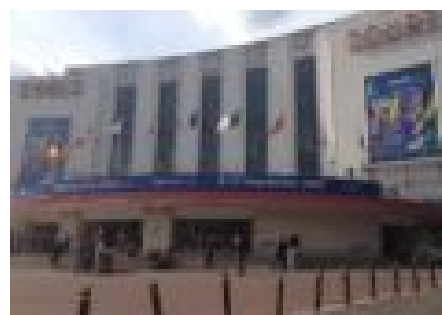
オレンジの丘より下に見える会場はNo.1コート



奥に見えるコートはオリンピック時に使用したコート。初めて白色以外の装飾がされた。

4 . Earls Court < PLASA 展示会 >

ロンドン南西部にある Earls Court で PLASA 展示会を視察



映像、音響、照明機材を中心としたイベント機材の展示会である。日本企業の出店は YAMAHA の

みであった。中国、韓国、台湾等アジアからの出展は多く日本から来た視察者としてちょっと寂し限りである。

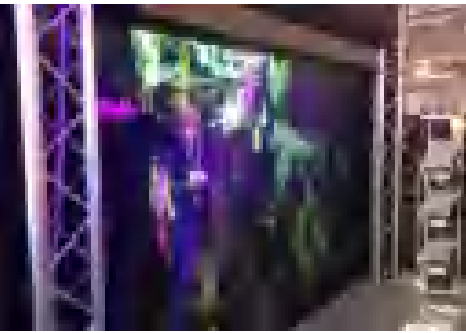


入場は事前登録制でナンバーを画面に入力すると中央部分から名前が記載されたカードが出力される日本の展示会では各自名刺をホルダーに入れる事を考えると進んでいる。

入場証(上)はオリンピックイヤーらしい演出としてメダルを模してある。会場は既存の吊りポイントが設けられており躯体にかかる負担を考慮することなく、決められた重量を吊ることができる。



上からミストが噴射されミストにリヤから映像を写している。ミストは自由に通り抜けでき、映像は写真以上にきれいに出ている。



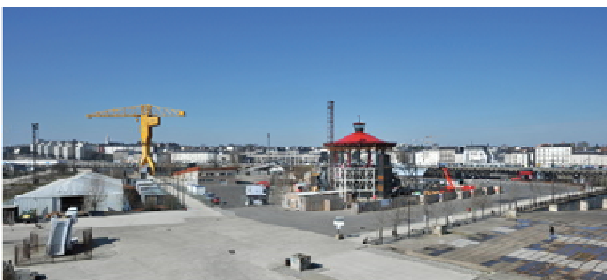
. フランスにおける施設等研究

1 . La Machine 社 < 演出 >

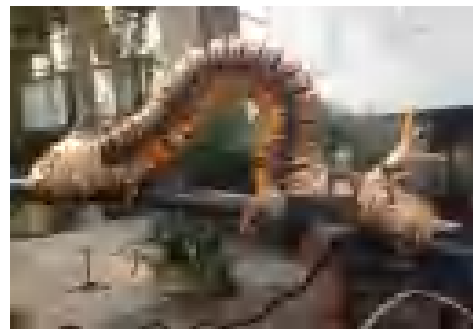
フランスナントに拠点を構える La Machine.

1999 年に発足された「大道劇場」。革新的なスペクタクルを製作するために集まったアーティスト、技術者、デコレーターの集団。劇場、都市計画、建築物に代表される公共的な場所を発展させるのが目的。

またラ・マシーヌは大道スペクタクル(巧妙機械



Les Mécániques Savantes、機械の大レパートリー Grand Répertoire de Machines、メカニック・シンフォニー-Symphonie Mécanique など) の他、都市整備の計画も受け持つ(ナント島の大きな象など)。さらに、ラ・マシーヌはスペクタクルの製作や機械構造やセットの製造も行う。製作の場所として、コンパニー・ラ・マシーヌはナントとトルヌフューコにアトリエを所有している。そこではスペクタクルから芸術品製作に至るまで工業や最新テクノロジーまでのチームが集まっている。



イモムシの模型アーチ状の柱を人に乗せてゆっくりと移動する



コウノトリの模型来場者に乗せてゆっくりと羽を広げ建物の端から端までを移動



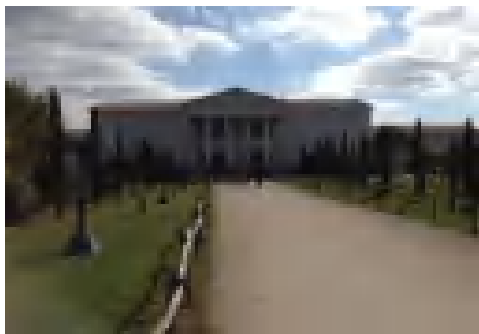
模型の見せ方として地面に穴を掘り椅子をスライドさせて、GL からツリーを見上げられるシーン、コウノトリの目線として壁に取り付けられた椅子を昇降させるなど見せ方の工夫がなされていた。

2 . PUYDU FOU

フランスでも開発が進まない一地方であった地域が、世界的な名声を得るプロジェクトを創り上げた。一つは歴史と自然を活用したテーマパーク「Grand Park」、一つは世界一の野(夜)外劇「SINÉSCÉNIE(ラ・シネセニー)」である。

(1) Grand Park

1～5が大人向けのショーステージ、6～14が子供向けのアトラクションとなっており、ショーステージは1日2～3クール実施しているが全てを1日で見るのは難しい程広い。夜は開演時間22時～の巨大なステージ(23ha)ショーを1.4万人のスタンドで観覧する世界最大の野外劇が圧巻である。



シーズンの中高年が多く、来場していた

ル・ピュイ・デュ・フーはパリから西に400km、ヴァンデ地方のエパス村に所属する通称の地名。現在では、歴史をテーマにした50ヘクタールのアトラクション・パークの「ル・グラン・パーク」(Le Grand Park)と野外劇の「シネセニー」(Cinéscénie)を総称している。

「ル・グラン・パーク」は4月から9月中旬、「シネセニー」は6月から9月中旬までオープンしている。

1978年に夏期の野外劇「シネセニー」が始まり、1989年に隣接して「18世紀の村」をテーマにしたアトラクション・パークである「ル・グラン・パーク」がオープンした。1995年には「中世の都市」を新設し、2004年には「1900年の町並み」テーマにした新しいヴィレッジをオープンした。

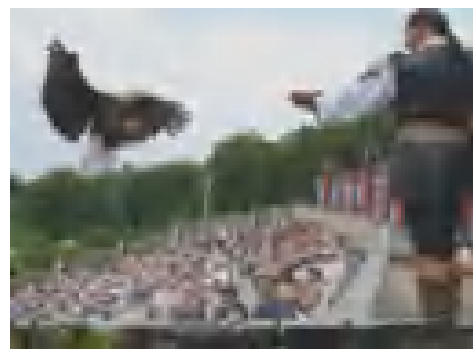
また、1997年にヴァイキングをテーマにした野外劇が始まり、次々に新しいスペクタクルを開催する。

現在では一日の集客数ではフランスの中でディズニーランドに次いで2位を占め、2012年には世界のアトラクション・パークの中から選考され「Thea Classic Award 2012」を受賞した。

「ル・グラン・パーク」は、商業目的のテーマ・パークで、「中世の都市」、「18世紀の村」、「1900年の町並み」、そして「西暦1000年の森」に分かれ、各ゾーンで合計6つの大きなスペクタクル、そして様々な子供のための小スペクタクルが催されている。

同時に大自然の中に位置する公園として、130種の樹木、250種の植物があり、様々な鳥類、動物が飼育されてもいる。

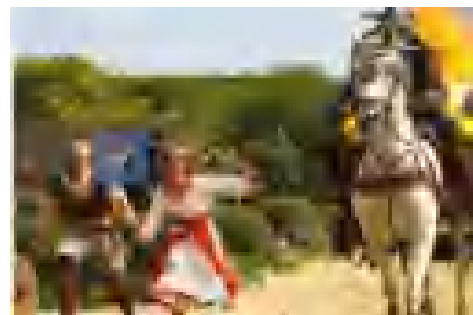
また訪れる観光客のために、3つのホテル、いくつかのレストランも完備されている。



150羽の猛禽類が空中パレエを舞うショー。鷹が観覧者の頭をかすめ縦横矛盾に飛び回りハヤブサが地上に浮かぶバルーンより客席目が急降下する。



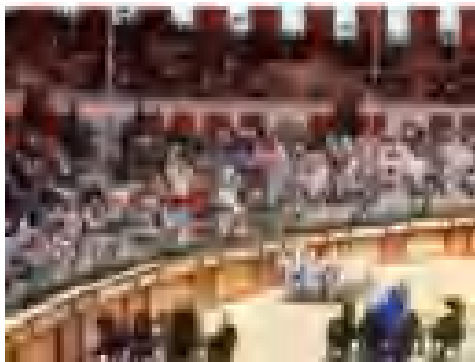
剣での決闘、フラメンコ、曲馬乗りで構成される17世紀の物語。馬の曲芸シーでは3,000㎡のステージ転換し水に覆われる。



平和な村をバイキングが襲撃、火を放つ、村人も応戦。バイキングは丘から船で登場したり、池から船ごと浮上し現れる。

「シネセニー」は、ヴァンデ地方の歴史的な重要さを紹介することに生まれた。1000人以上におよぶ出演者、スタッフはほとんどがボランティア

活動であり、一種の村起こしのイベントともいえる。



ローマ時代のスペクタクルショー。1万人は入るコロシウムで囚人たちが生き残りをかけサーカス芸を展開する。馬4頭引きのベンハーは迫力満点である。



1000年頃の鍛冶場、17世紀の村、中世の都市、1900年代の街並み等が再現されている

(2) SINÉSCÉNIE

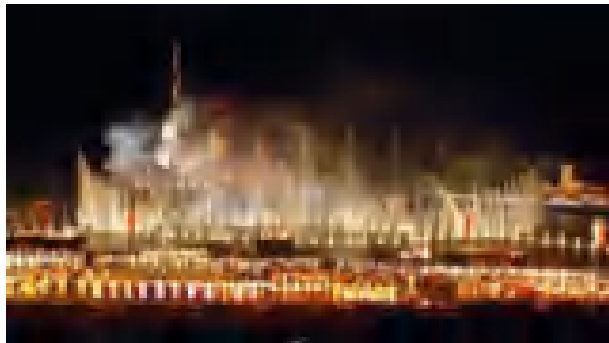
開演時間は22時～、スペクタクルショーは1時間40分に及ぶ17世紀～第2次世界大戦までのフランスの歴史を展開する。

年間28回の公演を開催し40万人を動員する世界最大の野外ステージショー。観客席は14,000人を収容する常設スタンド、全て指定座席。この日も平日の金曜日でしたが満員状態でした。出演者1,100人、運営ボランティア3,200人、衣装6,000着とスケールが大きい。

真っ暗闇のスタンドの前には大きな湖があり、その向こうには古城がうっすらと見える。照明がゆっくりと刺すと大勢の村人、騎士、動物たちが湖の前(ステージ)に現れる。古城はシーン毎に



CGで転換され、湖からは噴水が立ち上がり、スクリーンとなるフィニッシュはド派手に花火が上がる。花火は発火点が低く、花火の燃えカスが頭に降り注いでくる。



考 察

ロンドンという、円熟した都市でのオリンピック開催ということで、まさに東京に置き換えられる大会であると思いました。大会運営やボランティアスタッフの対応についてみると、自然な笑顔であったり、自発的な対応をしていたように思います。会場内はもちろん、地下鉄の駅や道端でさえ、少し道に迷ってキョロキョロしていると、「May I help you?」と声をかけてきてくれます。本当にボランティアスタッフ一人ひとりが、心から観客や観光客をもてなそうとする、ホスピタリティの気持ちを感じ取ることができました。

施設については、仮設建築物や仮設スタンドなどを有効に使っており、オリンピック終了後には適切な規模の施設に縮小したり、大胆に撤去したりと、無駄な施設運営費がかからないように考えられていると思う。またセキュリティエリアを明確にしている、会場周辺のフェンスの数量の多さに本当に驚かされた。ロンドンマラソン時の沿道フェンスと同様のものであるとのことだ。

装飾やサインについては、ピンク系の色が印象的ではあったが、そのピンクが実に上品な色であり、さらに植栽や緑が多々配置され、イギリスの奥深さを感じた。

成熟した都市の東京をいかにアピールできるであろうか? 招致が決まっても、決まらなくても問題が多いのではないだろうか。